

Abstract

セキュリタイゼーション・ディレンマ再考
——安全保障の新たな枠組み

西海 洋志（聖学院大学 准教授）

本稿の目的は、パンデミック時代の安全保障を考える新たな枠組みを提示することである。安全保障の核心は「不安の解消／安心の追求」にあるが、グローバル化の進む現代においては、この核心を保持しつつ考察の射程を広げる必要がある。その際に有効なのが、セキュリタイゼーションの視座である。本稿は、セキュリタイゼーションに関する先行研究を整理した上で、セキュリタイゼーションの過程にディレンマが内在することを明らかにする。つまり、不安を解消するためにセキュリタイゼーションを推進しても、逆説的に一層の不安を招くおそれがあるため、我々は「セキュリタイゼーションを推進すべきか否か」というディレンマに直面せざるを得ないということである。また、このディレンマの中で進むべき方向を判断するには、自身の現在地を俯瞰的に把握する必要がある。本稿はそのための枠組みを仮設し、試論的に各国の Covid-19 対応の相対的な位置づけを示す。